



エントロピー学会だより

No. 186

Web-site <http://entropy.ac/>

2015年7月24日

エントロピー学会

2015年秋の研究集会(予告)

今春の研究集会は諸般の事情により開催を見送ることになりましたが、秋の研究集会は名古屋にて開催いたします。詳細につきましては実行委員会で検討しておりますので、固まり次第、順次ご報告させていただきます。皆さんの奮ってのご参加をお待ちしております。

(青木秀和)

【日時】2015年11月28日(土)・29日(日)

【会場】名古屋市立大学桜山キャンパス

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
(市営地下鉄桜通線「桜山」駅3番出口)



交通アクセス：<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/guide/access.html>

キャンパスマップ：http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/guide/campus_map.html

2015 年度第 1 回世話人会開催報告

5 月 9 日（土）に名古屋にて本年度第 1 回目の世話人会を催しましたので、その席で話し合われたことをご報告します。

1. 報告事項

事務局より現在の会員数、会費納入状況、および事務局会計報告が行われた。会費の納入率が昨年度、一昨年と比べて低かったことが報告された。これは『えす』の発行が少なかったことなど、学会の活動が停滞していることが遠からず響いているものと思われる。

事務局より、昨年度の会計監査に関して監査担当の川島和義さんと安藤直彦さんに監査を受けたこと、並びにその結果が報告された（会計報告は p.4 に掲載）。監査担当者からは特段の意見は述べられなかった。

編集委員会より、『えんとろぴい』第 76 号を 4 月に発行したことが報告された。掲載見送りの原稿が一つある事が述べられ、後の協議事項に付け加えることとなった。更に、『えんとろぴい』第 77 号の発行予定に関する説明がなされた。（世話人会終了後、会場にて編集委員会が催された）

Web 委員会からの報告は、協議事項となった。

昨秋の京都での研究集会の報告が実行委員会よりあった。参加者が 20 数名にとどまった。宣伝が十分に行き届かなかったこと、他の催しと重なってしまったこと、などなどの理由があげられるが、研究集会の持ち方そのものを検討すべきではないか、という意見も述べられた。

2. 協議事項

本年度の世話人会体制に関して協議した。代表世話人の平井孝治さんが 2 年の任期を満了されたので、代わって青木秀和さんが代表世話人に就任された。これより、本年度は齋藤武光さん、青木秀和さんのお二人が代表世話人を務められる。なお、丸山茂樹さんが「えんとろぴい担当」に加わられた（世話人会体制は p.3 に掲載）。

本年度の事務局契約に関して、双方（エントロピー学会と木野環境）より変更等の申し出がなかったので、これまでと同額にて本年度も木野環境に委託することとなった。

学会の会則（定款）に関しては、前回の世話人会の決定に基づき、会員の皆さんのご意見を求めたところ、関西学院の M さんより何点かのご意見をいただいたので、このことに関して議論した。議論を経て、幾つかの修正を行った後、最終的な学会の会則を決定した（決定した会則は次号同封予定）。

決定した学会の会則に基づき、入会金および年会費に関して協議した。入会金については必要ないということで削除することとなった。年会費は一般一口五千元、学生二千元と決定した。尚、今回決定した年会費は、本人の申請により減額が可能であることを付帯条項として付け加えることになった。

編集委員会より、掲載を見送りにした原稿に関して説明があった。論理の飛躍と用法の不適切さがみられるので掲載を不相当と判断した。出席者より原稿に関して意見が述べられた後、編集委員会の判断を了承した。

今秋の研究集会と次回世話人会に関して協議した。青木秀和さんより、これらについて名古屋で開催したいという申し出があり、了承された。日程は11月28(土)、29(日)で、会場は名古屋市立大学桜山キャンパスの予定である。尚、プログラム等の内容については、後日実行委員会を開催してその場で議論することとなった。

これまで監査担当者は、「監査担当世話人」として世話人会に席をおいていたが、監査する側と監査される側とを明確に区別するために、今回より監査担当者は世話人を外れることが了承された(但し、世話人会に出席して意見を述べることはできる)。

Web委員会からの協議事項は、時間の関係で次回議論することとなった。丸谷一耕さんより、学会の新しいホームページおよびWebサイトの立ち上げに関してその内容を提案したい旨が述べられた。

最後に、中村修さんより2018年頃に研究集会を九州で開催したい旨が述べられた。

(文責：福本敬夫)

第33期世話人会が発足しました

名古屋で開催されました2015年度第1回世話人会において、本年度の世話人会が発足しましたのでお知らせいたします。また、本年度の役割に関して、監査担当者を世話人から外すことが了承されました。

(事務局担当世話人 福本敬夫)

【第33期世話人会名簿】

青木秀和	阿川琢磨	伊津信之介	井野博満	川島和義	黒田光太郎
斎藤武光	菅井益郎	鈴木明	田中良	藤堂史明	内藤誠
平井孝治	福本敬夫	古沢広祐	丸谷一耕	丸山茂樹	室田武
矢吹哲夫	山田國廣	山見拓	吉野太郎	和田喜彦	

(50音順)

【代表世話人】 青木秀和 斎藤武光

【事務局担当】 福本敬夫

【えす担当】 山見拓

【えんとろぴい担当】(編集委員会)

藤堂史明(委員長) 井野博満 菅井益郎 鈴木明 田中良
古沢広祐 室田武 丸山茂樹 矢吹哲夫 山見拓

【Web担当】 伊津信之介 黒田光太郎 丸谷一耕 吉野太郎

【会員管理・会計担当】 丸谷一耕

(*) 世話人外

【監査担当】 安藤直彦 中村修

2014 年度会計報告

(2014.4.1～2015.3.31)
(円)

収 入		支 出	
会費 255名(振替口座)	1,440,500	旅費交通費(打合せ、会計監査)	17,080
11名(現金)	55,000	印刷費(えす・えんとりびい印刷)	124,385
		事務消耗品費	11,043
書籍売上	10,000	送料	129,738
カンパ	111,000	振替口座手数料	1,636
受け取り利息	44	雑費(シンポジウム事務局への補助)	164,538
		雑費(会場費等)	22,887
		委託料(封入作業等)	87,328
		委託料(えんとりびい編集費用)	100,000
		委託料(えす編集費用)	64,800
		事務局委託費用	432,000
		WEBSITE サーバー	24,300
		諸謝金(シンポジウム謝金)	40,000
小計	1,616,544	小計	1,219,735
前期繰越金	2,357,795	次期繰越金	2,754,604
合計	3,974,339	合計	3,974,339

(前期繰越金) - (次期繰越金) = -396,809

繰越金内訳	
郵便振替	2,548,785
事務局手持現金	34,389
郵便貯金	65,434
みずほ銀行	126,996
合計	2,775,604

地域セミナーから

■ 特別セミナー（名古屋）

名古屋特別セミナー開催報告

テーマ：需要者から見たわが国電力事業の総合的解析

話題提供者：青木秀和・河宮信郎

開催日時：2015年5月9日（土）13時00分から14時45分

会場：名古屋市立大学桜山キャンパス 医学研究科・医学部棟 1階 会議室1

まず青木から要約以下の報告を行った。わが国の電力事業の電源別コスト・パフォーマンスは、モデルプラントを想定した送電端における「発電単価」によって測るのを通例としてきた。これに対して需要者にとってより関心があるのは、自分が直接支払う「購入価格」のうち、発電から送電、変電を経て手元に届くまでかかった費用（「総括原価」）に、購入時の税負担を加えた「需要端電力原価」がどのくらい占めているかである。電源別のこの原価推計は、過去の電力産出データと財務会計データからの導出できる。これに加えて、発電プラント別に発電量を把握できるならば、プラント別に（たとえば福島第一原子力発電所の原子炉ごとに）費用・収益が推計可能となる。（具体的な成果については、次号『えんとろぴい』に報告予定）

次に河宮から以下の報告を行った。巨大核事故が起こったとき、政府がまず取り組むことは、汚染隠し・被曝隠しである。さらに、被曝被害を隠していること自体を隠すために、必死で報道管制を行いつつ、被曝傷害が「ただちに生じない」とか「認知できない」ことを徹底的に宣伝する。これは、日本政府に限らず米・露を筆頭に、核物質をもつすべての政府の常套手段である。

そして線量規制や被曝防護は、「核産業・原発の発展を妨げない」範囲に抑えられる。これが「reasonably achievable な被曝軽減」の真意である。とすると、被曝住民は「被曝しない」という生存権・基本的人権をまもるためにも、自ら主体的に被曝影響の実態を知り、被曝疾患のリスクに備え、放射線防護や被害補償を要求していくほかない。この状況が必至であることを30年以上前に洞察し、それを実践するための理論を整えたのがゴフマンとタンプリンであった。本セミナーでは、被曝線量と被曝ガン死リスクの相関性に対するゴフマン理論を紹介し、とくに幼少期被曝の危険性について解説した。

（青木秀和）

■お知らせ

●えんとりぴい編集委員会からのお知らせ

『えんとりぴい』第77号は論考3篇と特集原稿が版下製作中ですが、全体としてまだ30ページ強しか確定しておらず、残りは執筆者・発表者の皆様の確認をお待ちしている状態です。全体が予定通り揃えば50頁を超え、発行できる頁数になりますが、この間、締切を再延長して論考だけでなく紹介・書評や談話室を含む原稿のご投稿をお待ちしたいと思います。締切延長は7月末まででお願いいたします。

(『えんとりぴい』編集委員会 藤堂史明)

●会費の納入について

会費納入には同封の振込用紙をご利用ください。最終の入金年月日は封筒の宛名シールに記載しております。すでにご入金いただいた方には、行き違いとなることをご容赦ください。

編集後記

6月にニュージーランドで開催されたアジア太平洋緑の党大会（APGF2015）にサポーターとして参加しました。大会では議論の進め方が実にやさしく、誠実に、そして全員が納得いくまで話し合うスタイルで、「民主主義」とは何かを考えさせてくれる貴重な機会となりました。大会後は、知り合いを訪ねてオーストラリアへ移動し、シドニー、バイロン・ベイへ。オーストラリアの最も東にある小さな街バイロン・ベイでは、信号機がなくすべてラウンドアバウト、油もシャンプーもすべて秤売り、お店もチェーン店はほとんどなく、地元のお店ががんばっていました。いわゆるチェーン店は地元の仕事を奪うと反対運動が起こるそうです。また、30年以上前からソーラーエネルギーのことを仕事にしている会社「Rainbow Power Company」を訪ねてお話を聞くこともできました。この会社の住所をみると「1 Alternative Way Nimbin NSW」。Alternative Way とはまたかっこいいではありませんか。夜は南十字星もばっちりチェックし、初めての南半球を堪能したのでした。

(『えす』編集担当世話人 山見拓)

エントロピー学会

〒600-8085 京都市下京区葛籠屋町 515-1 電話：075-708-8063 Fax：075-708-8062

郵便振替番号：00950-5-187041 e-mail：office-k@entropy.ac